

編集後記

当誌が1988年にVol.1 No.1の産声を上げて10年を迎えた。医学とりわけ、開業医の医療を取り巻く環境も大きく変わり、長い年月が経過した。会員各位及び研究会での講演者からの数多くの投稿と、編集委員並びに社保学術部員のご尽力により、本誌が今日を迎えたことを感謝する。とりわけ、今日の高い水準の「明日の臨床」が発行可能になったのは、編集委員であられる高橋教授の御尽力が大きかったと考えている。教授は思いを以下の様に述べている。

「『明日の臨床』が今回の刊行で第10巻になるという。早いものと驚くと同時に、よくも廃刊にならず続いてきたものとも思う。1巻1号であるから10年で10冊、あまり厚くない本誌は全部並べてもほとんど場所を取らない。そのか細い姿が余計にいじらしくもある。反面、本誌にはまだまだ問題点と宿題があり、それを一つ一つ解決してゆくことが次の10年の発展に繋がると思う。

一番大きな課題は、当初の目標であった“大学の先生が論文を投稿してくれるような学術誌”に育て上げることであろう。そのためにはなんとしても年間複数回の刊行を実現したい。1巻1号では学術誌としての品位が問われる。せめて年間2号刊行が当面の目標で、季刊刊行が実現できたら拍手喝采のものである。次は査読制度の導入である。編集委員2名により編集委員会前に査読を行うが、その目的は誤りを見付け、目に余るひとりよがりやを諫めるため、余り厳しくなくてもよいと思う。学術誌としては査読制度を持つことは必須の条件である。

本誌へ活発に投稿なさる先生方がいて下さることは嬉しいが、その輪をなんとかして少しでも広げることも課題の一つ。開業医の先生方がご自分で文献を探して論文を執筆することの困難さは想像に易く、たとえばどの雑誌の何巻何号何頁の論文と、詳細なアイテムが分かれば大学図書館で検索するくらいのお手伝いはできないものかとも思う。

本誌は10歳まではなんとか育った。さらに大きく健やかに育てるのは編集委員の責務でもある。(高橋英世)

われわれ会員は、明日に希望を持ちつつ、限り無く進歩のある診療を続けて行きたいと願っている。堀尾編集委員は、「今まで第1線の開業医の為になる学術誌の役割りはほぼ果たしているかと思います。ただ専門分野が多岐にわたっている所から、なかなか自分の興味のある記事が見つからないという不満はどうしてもあるかと思えます。境界領域は各分野に共通するようなものが多くあると更によいと思うのですが。プライマリー・ケアにしばった特集なども如何でしょうか。(堀尾 仁)」と語った。本誌は常に純粋に学術的な立場で、今後も編集をしたいと考えている。会員各位において、専門を問わず全科にわたり幅広く現在の標準的な知識をもって、毎日の診療に従事されることは、心強いことであろうと信じている。本誌「明日の臨床」を毎日の診療の一助にしたい。今後は気楽に投稿して頂ける様にとフロッピーディスク、E-Mailによる受付と、年2回の発行を目標に、編集関係者は努力しているので、今までにも増して奮って御投稿をお願いしたい。(岡田達郎)



華陀手術の図。きずの手当てを受けている関羽は、碁に集中してその痛みを忘れている。

編集委員 (五十音順 *印委員長)

岡田 達郎*	池山 淳	城後 俊明
高橋 英世	堀尾 仁	

明日の臨床

Vol.10 No.1

1998年12月15日発行

編集 明日の臨床編集委員会

発行所 愛知県保険医協会

〒466-8655 名古屋市昭和区妙見町19-2

☎ (052) 832-1345

制作 ブックエンド

領 価 1,000円・発行部数 6,700部